

# 2023年度「公益財団法人 柿田川みどりのトラスト」事業報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

## 1. トラスト事業（公1）

（定款第4条(1) 柿田川湧水群流域の土地等の取得、借上げ及び管理）

### (1) 土地の買収、借上げ

#### ア. 買収 土地の新規買収（登記完了）

三宝開発より大六天の土地30坪と隣接している土地約10坪の購入打診があり2022年8月30日に交渉。宅地開発が落ち着いてから手続きを進め3月15日に登記が完了した。

対 象 地	面積 (㎡)
・新規 13号地. 清水町堂庭字大六天 17-59	36.00

#### イ. 借上げ

対 象 地	面積 (㎡)	価格 (千円)	単価 (円/㎡)
・継続 清水町柿田小字柿添 51-1, 52-2, 3, 53-1	905	150	166
・新規 なし			

(参考—既買収地 5496.12㎡)

対 象 地	面積 (㎡)
1号地. 清水町堂庭字広フケ 23	191.00
2号地. 清水町堂庭字広フケ 38	985.70
3号地-1. 清水町柿田字川端 79-1	230.04
3号地-2. 清水町柿田字川端 79-2	646.69
4号地. 清水町堂庭字大宿 48-1	299.00
5号地. 清水町伏見字泉 85-2	520.00
6号地. 清水町堂庭字広フケ 24	670.76
7号地. 清水町堂庭字広フケ 35	894.88
8号地. 清水町堂庭字大六天 14-1, 2	273.83
9号地. 清水町堂庭字大六天 16, 17-18	139.00
10号地. 清水町堂庭字大六天 17-15	158.00
11号地. 清水町堂庭字大六天 20	390.00
12号地. 清水町堂庭字大六天 14-3 他	97.22

#### ウ. 管理 2. (6)を参照

### (2) トラスト及びその他の公益事業推進のための募金活動

#### ア. 寄附金の受付

- ・領収書及び礼状、新聞の発送
- ・寄附者の名簿の作成
- ・寄附状況の集計及び公表（毎月1回）
- ・寄附金合計が約1億5千8百万円（約21万円増）になった。

#### イ. 街頭募金活動

- ・柿田川公園にて計5回

4月9日、8月5日、9月10日、11月12日、3月10日に実施。(5月14日、6月11日、7月9日、10月15日は雨天中止)

## 2. 環境保全事業(公2)

(定款第4条(2) 柿田川湧水群及び流域の環境保全活動)

### (1) 種の保存活動

#### ア. ミシマバイカモの保存

- ・アシ及びオオカワヂシャ及びノハカタカラクサ等の除去(外来種除去)

ミシマバイカモの生育の為に、日照を阻害するアシ及びオオカワヂシャ及びノハカタカラクサ等の除去を国交省、清水町、業者、一般ボランティアの協力を得て、年14回実施した(4月22日、5月27日、6月10日、6月24日、7月8日、7月22日、8月12日、8月26日、9月9日、9月23日、10月14日、10月28日、11月25日、12月23日)(5月13日、3月23日は雨天中止)。2017年度以降、4月から9月まで月2回除去した結果、従来よりもオオカワヂシャやアシの除去を実現できた。2023年度も4月から10月まで荒天の場合を除き月2回除去し、さらに良好な環境を実現できたはずなのだが、残念ながら2023年度はミシマバイカモの生育面積は更に減少した(詳細は3(2)参照)。ノハカタカラクサが水辺にも進出してきているので、ノハカタカラクサの除去も行った。また、月2回の除去では取り切れないところについては、国土交通省が業者に依頼し、その場所や優先順位についてはトラストが指示した。

- ・ミシマバイカモの移植

上流部の生育状況を見て、外来種除去作業後にミシマバイカモの種を上流部へ適宜移植した。

#### イ. ナガエミクリの保存

- ・ナガエミクリの日照確保

4月26日、6月19日、9月20日に中流左岸の樹木の枝を切り、ナガエミクリの日照を確保した。

- ・ナガエミクリの保存

教材園周辺のナガエミクリを保護するために、ナガエミクリを切らない様に申し入れている。また川の整備をするときにはトラストのメンバーが立ち会う。

- ・ナガエミクリの移植

国土交通省が試していたので、トラストとしては上中流部への移植は実施せず。

#### ウ. ホトケドジョウ、トンボ類、ホタル類のための環境整備

- ・中流左岸のビオトープ近辺のカサスゲを除去し、ビオトープを整備した。また、ヤマサナエ、ダビドサナエ、アオハダトンボ、ミルンヤンマ、コシボソヤンマ、オオアオイトトンボの繁殖環境を整備した。ヘイケボタル、ゲンジボタルの繁殖環境を整備した。

#### エ. アユ産卵の環境整備

9月9日に、清水町職員と当会メンバーで、舟付場にあるアユの産卵床の砂を取り除き、水深を深くしたうえで礫を出現させ、産卵時に卵が引っ掛かり易くした。

#### オ. ナガエツルノゲイトウの除去

特定外来種ナガエツルノゲイトウの除去を国交省が6月8日に行なったが7月19日に取り切れてないことが分かり、9月12日に国交省が3回目の除去作業、10月20日に再繁茂を確認し、11月22日に国交省による4回目の除去作業が行なわれた(当会3名立ち合い)。

(2) 柿田橋周辺の環境美化保全活動

2023年8月27日と翌年3月20日に柿田橋周辺のゴミを拾い環境美化を実施した。

(3) 清水町よりの受託事業

清水町受託事業として柿田川監視パトロール活動について数名が委嘱を受け、延200回／年の巡視活動をした。

(4) 柿田川周辺の巡視活動((3)を含む)

平日は2～3名、土日・祝日は数名が巡視した。

(5) 標識・看板等の維持・管理

買上げ地に付けた番号を記した看板のデザインを検討し、見積をとった。会員の合意・了承を得た後で発注する予定。

(6) 買い上げ地の整備

外来種除去作業の際に、対象地の外来種を除去し、一部をビオトープにしている。

(7) 流域周辺の整備

柿田川公園北側の歩道の下がえぐれて陥没していた。8/21～23に国交省が草刈りを行ない、8/29に調査を行ない、仮措置を行ない、補修方法は検討中とのこと。

3. 調査研究及び情報収集事業（公3）

(定款第4条(3) 柿田川湧水群及び流域の自然環境保全及び活用に関する調査研究並びに情報の収集)

(1) 柿田川の水質調査

4月20日、7月20日、10月19日、1月18日、第一展望台下湧水口で実施。

かつて問題になった塩素系有機溶剤は10月19日以外には検出されず水質は良好。ここ数年、最上流部の湧水口から大腸菌が時折検出されていたが2022年度から2023年度にかけては8回の検査で全く検出されず良好であった。一般細菌は4月20日には8個/mL検出され、7月20日と10月19日には検出されなかったが、2024年1月18日は10個/mL検出された。BODは、2023年1月18日には0.7ppmだったが、4月20日には0.6、7月20日と10月20日には0.5未満、2024年1月18日は0.5と減少傾向にある。

(2) 動植物調査、その他一般調査の実施

・野鳥調査 2023年度は11回実施（4～3月）。

4月16日に29種、5月20日に20種、6月17日に20種、9月17日に12種、10月21日に22種、11月19日に28種、12月24日に31種、1月28日に26種、2月11日（野鳥観察会）に33種、2月18日に31種、3月17日に34種の野鳥を確認した。

・ミシマバイカモ、ナガエミクリの状態調査

8月27日に行われた動植物調査では、ミシマバイカモの生育面積は1232㎡で、前年比42%減891㎡減、ナガエミクリは2595㎡で前年比28%増564㎡増であった。

ミシマバイカモの1232㎡は、1996年と同水準の最低の数値である。近年、上流部、中流部は4月から10月にかけて、行政も参加してオオカワヂシャを月2回ずつ除去する外来種駆除の効果が出て、オオカワヂシャの繁茂は抑えられ、ミシマバイカモにとっては良好な状態であるはずだが、昨年に続き大幅に減少した。オオカワヂシャが出現した2000年の分布面積と比べてみると、下流部は39㎡（39%）増加しているのに対し、上流部は842㎡（72%）減少し、中流部は364㎡（32%）減少と、特に上流部と中流部の減少が目立つ。原

因としては、異常高温によるものなのか、外来種除去作業や水に親しむ集いで多くの方が川に入ることでダメージになったのか不明だが、外来種除去の際には、ネットは抱えて運び、川の中を引きずらないことを徹底したい。また、運ぶ際には川の中のミシマバイカモを踏まないことを徹底するとともに、水に親しむ集いの人数制限等の保護策を推進したい。国交省沼津、清水町、リバーフロントの職員、ボランティアの方々、当会会員の地道な努力に感謝するとともに、来年以降も引き続き外来種除去の継続をお願いしたい。

ナガエミクリは2013年以降、大体1000㎡前後で推移していたが、2021年は2037㎡、2022年は2031㎡、2023年は2595㎡となり、最も多かった1997年の3220㎡の約81%まで回復した。上流部、中流部はあまり変化がないが、下流部は大幅に川面に増加した。特に工業用水取水口付近では生育面積を大幅に拡大し、下流部右岸では群毎抜けてしまった様な個所があるにも関わらず、トータルでは昨年より500㎡以上増加した。

#### ・トンボの調査

アオハダトンボは、2022年度に続き2023年度も残念ながら1頭も確認できなかった。9月3日の調査でアオハダトンボのメスがいたと思われたが証拠を撮っていなかったために9月14日に再調査を行なったが確認できなかった。数量的にいても絶滅と思われる。原因は異常高温、産卵・生育環境の悪化が考えられる。現在実施中の川への入場制限を継続すると共に、ナガエミクリの生育を促し、アオハダトンボの産卵・生育環境の改善を続ける。

ハグロトンボは8月27日、9月2日の調査では48頭で30頭増だった。

アサヒナカワトンボは無色型が33頭で18頭減、橙色型19頭で1頭減、計52頭で19頭減だった。今回は8月27日調査時に雷及び雨雲接近により中流部迄で中断し、9月2日に中流部から再開して調査を行なった。アサヒナカワトンボは他の月では300頭を超える月もあり、アオハダトンボ以外は問題なしと判断している。

- ・国土交通省と合同でトンボ類の調査を実施した。上流から下流まで調査し3月22日は確認できず、4月25日は4種158頭、5月16日は5種318頭、6月19日は6種361頭、7月19日は8種214頭、8月27日及び9月2日は13種541頭、9月20日は9種373頭、10月16日は6種199頭、11月21日は1種1頭だった。
- ・産卵アユの調査 狩野川から入ってきた11月上旬から産卵が終わった12月上旬迄、毎週調査したが、黒潮の蛇行のせいか、今年度はアユの遡上が少なかった。
- ・絶滅危惧種のホトケドジョウ、ウツセミカジカは2016年度以降、毎年、生息を確認。

#### (3) (公社) 日本ナショナル・トラスト協会第41回全国大会

12月9日、全国大会が開催され当会からは6名が参加した。内2名は初参加だったが、各団体からの報告を聞き、会話をし、刺激を受けたと報告があった。

#### (4) 柿田川生態系研究会(国土交通省主催)への参加

開催されなかった。2023年度は当研究会の今後の活動や継続の仕方について代表と事務局とで検討・調整する期間とするため、開催に至らなかった。

### 4. 普及啓発事業(公4)

(定款第4条(4) 柿田川湧水群及び流域の良好な自然環境及びその保全活動に関する普及啓発)

#### (1) 自然観察会の開催

- ・4月2日(日)、春の観察会 20名参加。

例年通り合流点から第一展望台まで歩いて観察した。柿田橋上流でイタチを見た。教材園の木道は修理が完了していた。

- ・7月30日(日)、水に親しむ会 32家族97名が参加。

柿田川を理解できると大好評だった。加和太建設から飲み物差し入れ、保冷パックの寄付、オ

オカワヂシャ回収の協力があった。

- ・ 8月13日（日）、夏の観察会 26名参加。  
通常のコースを回った。久しぶりに水道局へ立ち寄り飲水し、施設建物より柿田川を眺めた。
- ・ 8月19日（日）、県主催 富士山の恵み柿田川自然観察会 76名参加。  
次回以降の流れてくるオオカワヂシャの回収協力を提案し、県から検討すると回答があった。
- ・ 12月3日（日）、アユの観察会 19名参加。  
当日、舟付場にアユは来ていたが産卵を観察できなかった。ただ、後日産卵の報告があった。
- ・ 2月11日（水）、野鳥観察会 37名参加。  
33種を確認した。当日は予報では降水確率0%だったが、途中から小雨に降られた。合流点の狩野川下流にて久しぶりにオカヨシガモを確認した。

## (2) 研修会（学習会）の開催

- ・ 新型コロナウイルスの影響で、昨年に引き続き、今年度も中止した。

## (3) ライブラリーの整備

- ・ スライドの整備、撮影した写真の整理を行った。また、各種行事、動植物、柿田川に関連するテレビ番組の放映の録画を行った。

## (4) 普及啓発誌の発行

- ア. 「柿田川だより」の発行 4月、7月、11月の3回 各500部  
賛助会員、友好団体、関係官庁、学校、図書館等に配付。
- イ. 新聞「柿田川」の発行 年1回発行（1月） 5,000部  
例年7,000部印刷していたが、2023年度は2022年度と同様にコロナの影響もあり、新聞を渡す機会も減少すると考えられたので、2,000部減らすことにした。  
賛助会員、友好団体、自然観察会参加者、関係官庁、学校、図書館等に配付。  
また、地域住民、街頭募金者にも配布。

## (5) 図画映像の制作・普及

- ア. DVDの制作・普及  
創立20周年事業として柿田川自然保護の会と協同制作したDVD第1版に続き、DVD第2版の製作のためのコンテンツ収集は完了し、編集作業を実施しているが、ヤマセミ、アオハダトンボ以外にも、ホトケドジョウ、ゲンジボタル、カヤネズミなど、生息状況が撮影時とかなり変わってしまった点があるので見直し中。第2版を理事・懇談会で試写した。
- イ. 絵葉書（「清流柿田川」、「柿田川と四季の富士山」）の普及（販売）  
今年度は増刷はなし。新型コロナウイルスの影響で販売は激減し、「清流柿田川」を18部、「柿田川と四季の富士山」を29部販売した。絵葉書デジタル化に向けて準備中。

## (6) 説明板の設置・補修

2023年度は補修が不要だったため補修せず。

## (7) インターネット上の柿田川ホームページ拡充

柿田川の概要説明、トラスト会員募集、活動状況、行事予定等を掲載し、柿田川の自然保護を訴えるインターネットのホームページを拡充・活用し、適宜、内容を更新している。

## (8) フェイスブックページの拡充

柿田川の動植物、景色、活動予定、活動の様子を画像・文章で紹介しボランティアも募集。

(9) 柿田川の案内・説明

- ・日本水大賞授賞式で打診され、7月25日に四日市大学一行10名が来訪し、説明・案内した。
- ・10月28日、さむかわネット一行42名が来訪し、会員4名で説明・案内を行なった。
- ・11月2日、西武そごう会一行20名が来訪し、説明・案内を行なった。

5. 湧水量及び流量の維持向上事業（公5）

（定款第4条(5) 柿田川湧水群の湧水量及び流量の維持向上）

(1) 柿田川の流量調査（於・柿田橋上流30m地点）

- ・8月27日、99.5万トン/日（前年同時期より3.4万トン減少）  
上記流量に上流の飲料水、工業用水汲上量（15.7万トン）を加算すると湧水量は115.3万トン/日（前年同期比5.9万トン減少）だった。過去5年平均は123.6万トン/日、過去10年平均は120.2万トン/日なので、過去平均より5～8万トン/日少ない。
- ・3月20日、96.6万トン/日（前年同時期より2.3万トン増加）  
上記流量に上流の飲料水、工業用水汲上量（16.4万トン）を加算すると、湧水量は113.0万トン/日（前年同期比約1.7万トン増加）だった。過去5年平均は117.8万トン/日、過去10年平均は113.7万トン/日なので、過去平均より1～5万トン/日少ない。

(2) 水源地植樹

ア. 「柿田川・東富士の地下水を守る連絡会」の活動への参加

漆畑会長が代表幹事として、他2名が幹事として連絡会の活動に参画した。「柿田川・東富士の地下水を守る連絡会」が、6月13日に日本水大賞の農林水産大臣賞を受賞した。

イ. 柿田川地下水源の涵養林育成（アの活動の中の打ち合わせ以外の活動）

【新規植樹（補植）】

- ・4月29日の植樹は参加者190名で、大苗110本は区画3に、小苗195本は鹿網3-1に、合計305本を植樹した。
- ・12月1日、清水町地域交流センターにて柿田川・東富士の地下水を守る連絡会幹事会を開催し、今年度の事業報告と会計報告を行なった後、来年度の植樹計画を策定した。

【既存の植樹地の保全及び地ごしらえ等】

- ・4月7日に植樹の事前打ち合わせを行ない、各団体参加者見通し、手順などを確認した。
- ・8月4日に柿田川・東富士の地下水を守る連絡会を開催し、下草刈り、防護柵補修、どんぐり拾いなどの今後の予定と来年の植樹地などを検討した。
- ・9月16日、区画2及び3のシカ防護網内の下草刈りを行なった。
- ・1月13日、沼津市大平政戸地区(狩野川左岸河川敷)にて、苗木支柱用の竹を500本と、小苗支柱用の竹200本、かつぎ棒用の竹50本を作成し、植樹範囲を示す為の竹を伐採した。
- ・2月4日、17名で植樹用大型苗木70本を根巻きした。
- ・2月17日、19名で植樹用大型苗木35本を根巻きした。
- ・3月24日、大苗100本と小苗200本を上げ、区画4に支柱を立て、沼工生は古いシカ網を除去した。残り4本の大苗は沼津のメンバーが別途、苗場に上げる予定。

【富士山麓に植える苗木を育てる為のドングリ拾い】

- ・11月4日に第1部ドングリ拾い、第2部沼工山岳部のガイドによるハイキングの2本立てで行なった。38名の参加があったが、残念ながらドングリは不作でほとんど拾えなかった。

## 【植樹事業の継続】

- ・森林管理署と5年延長した協定により、植樹、育成状況モニタリング、鹿網補修等の管理実施。

## 6. 行政・他団体との協力・連携事業（公6）

（定款第4条(6) 行政及び他団体との協力及び連携）

### （1）国土交通省との共同事業

- ・国土交通省(沼津河川国道事務所)との連絡会  
2023年度は開催されなかった。
- ・柿田川自然再生検討会、柿田川シンポジウム  
柿田川自然再生検討会が2月14日に開催され、令和5年までの計画を延長する形で継続することで合意した。

### （2）清水町柿田川公園検討委員会への参画

- ・11月21日、任期満了に伴う再委嘱が行われた。公園の芝生再生が完成した。

### （3）柿田川を語る会への参画

- ・1月17日、清水町主催の語る会が開催され3名が出席し、自己紹介と各々の思いを語った。

### （4）その他の協力・連携

#### ア. ふじさんネットワークへの参加

- ・6月3日、総会が沼津プラザヴェルデで開催され、2022年度事業報告/決算、2023年度事業計画/予算等の審議・承認、及び、日本水大賞授賞式での発表報告の練習も実施した。
- ・10月18日、理事会が開催され、会長が出席した。
- ・3月16日、ふじさんネットワーク幹事会が開催され、2023年度事業報告、決算、2024年度の事業計画、予算等が報告された。

#### イ. 日本ナショナル・トラスト協会理事会・総会等

- ・5月26日、第1回理事会が行われ、事業報告、決算、予算変更について決議が行われた。
- ・6月14日、総会が開催され、2022年度事業報告、決算、2023年度予算が承認された。
- ・3月14日、第2回理事会が行われ、2024年度事業計画、予算を審議した。

#### ウ. マスコミ取材等への協力

- ・新聞・雑誌、テレビ、ラジオの報道の取材に対し、報道の中で自然保護を訴えた。  
(NHK大阪、テレビ朝日、TBSテレビ、日本テレビ、読売新聞、静岡新聞、中日新聞 他)  
9月12日にテレビ朝日により、柿田川でも確認された特定外来植物のナガエツルノゲイトウの取材があり、10月8日以降に県内及び首都圏で放映された。

#### エ. 柿田川公園保全（湧水保全の会主催）

- ・3月16日、約300名が参加。清水町、湧水保全の会との共同作業。当会6名参加。1時間程で完了した。

#### オ. 2号排水路ヒューム管撤去

- ・今年度はヒューム管の撤去はなかった。

#### カ. 湧水祭が8月5日に開催され、当会はパネル展示、動画放映、クイズ、募金等を行なった。

キ. 他団体による外来種除去作業

- ・ 9月2日に、ロータリークラブ及び関係者150名が外来種除去作業を行ないたいとの申し入れがあり、会長及び会員立ち合いの下、ビオトープ周辺のオオカワヂシャを除去した。

ク. その他

- ・ 8月18日、三島市民文化会館にて名水サミットが開催され、柿田川の保全活動の現状について当会会長及び中嶋が発表をした。

7. その他目的を達成するために必要な事業

(定款第4条(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業)

(1) トラストに対する税制優遇の推進

社団法人日本ナショナル・トラストが全国組織として環境省、自民党に機会ある度に働きかけているが実現していない。

8. 法人管理

(1) 賛助会員募集

ア. 賛助会員募集

柿田川新聞やホームページ等で賛助会員を募集。現在、賛助会員数は団体8、個人は225名。10月14日に検討委員会のメンバーを決め、10月28日に賛助会員増加策を検討した。

イ. 賛助会員、募金者への対応業務

募金者と法人会員に対して、領収書及び礼状、新聞、柿田川だよりの発送を行っている。個人会員は225名いるが、本年度に会費を納入したのは123名(133名分)。団体は8団体の内、5団体が納入した。

(2) 評議員会・理事会の開催

ア. 事務局会議(清水町地域交流センター)

- ・ 5月13日(土) 18:00~19:20  
2022年度事業報告、決算報告の内容確認を行なった。
- ・ 3月9日(土) 18:00~18:50 2024年度事業計画書、予算及び役員改選を検討した。

イ. 理事会(清水町地域交流センター)

- ・ 5月25日(土) 19:00~20:50  
2022年度事業報告書および決算報告の審議・承認を行なった。
- ・ 7月27日(木) 19:00~20:35  
堂庭地区公民館土地の買い上げ、賛助会員の増加について検討した。
- ・ 10月14日(日) 18:00~18:50 賛助会員増加策の検討、柿田川を語る会と公園検討委員会の参加者を確定した。
- ・ 11月11日(土) 18:00~19:00 業務執行理事による執行状況報告を行なった。
- ・ 3月20日(祝) 14:00~15:00 業務執行理事による執行状況報告を行ない、  
2024年度の事業計画書、収支予算等の審議を行ない、承認した。

ウ. 評議員会(清水町地域交流センター)

- ・ 6月10日(土) 15:00~16:00  
2022年度事業報告書および決算報告の審議、承認を行なった。



(3) 事業計画書・予算、事業報告書・決算の作成

5月の理事会、6月の評議員会に向けて、5月13日（土）事務局会議で2022年度の事業報告書・決算を作成し、5月18日（木）決算、事業報告の内部監査を行なった。3月の理事会に向けて、3月9日（土）事務局会議で2024年度の事業計画書・予算を作成し役員改選の検討を行なった。

(4) 行政庁への報告・届出書の作成

指定された期日までに滞りなく報告・届出書を作成した。

- ・ 2022年度の事業報告書・決算は、2023年6月29日に県に提出した。
- ・ 2024年度の事業計画書・予算は、2024年3月30日に県に提出した。

以上